

第24回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会 会議録

日時：令和7年6月24日(火)19:00～20:00

場所：多治見市立笠原中学校 会議室

【出席者】

委員：笹田委員、岡本委員、大向委員、伊藤委員、稲葉委員、森本委員、
各務委員、水野(豊)委員、前田委員、加知委員、熊崎委員、
大山委員、矢野委員

保育幼稚園課：山崎、富田

事務局：教育長、副教育長

教育推進課：丹羽、南谷、今村

教育総務課：市川、高田、瀬瀬

教育研究所：前田

教育相談室：山中

【欠席者】

加藤(裕)委員

(要点筆記)

開会	
会長	・第24回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会を開会します。
次第1	教育長挨拶
教育長	・改めましてみなさんこんばんは、多治見市教育長の仙石と申します。 今、水野会長からお話があったように、第24回ということで本当に長い こと議論を重ねていただきました。今回年度替わりということもあっ て、名簿を見させていただいたら、半分以上の方が前年度も携わって いただいた方で、この後自己紹介もあるとは思いますが、笠原小中学校、 笠原こども園の開校・開園まで色々な角度で議論していただければと思 います。こちらの会に出席させていただいて2年になりますが、2年前 はここで議論していることが、理念や方向性など、抽象的なことが多か ったです。ただ、このところは話の内容が具体性を帯びて、いよいよ 形になってきたので、その話の流れからしてもいよいよ開校が迫ってき たなというような印象です。今日お越しいただいているPTAの方々とNPO まいてさんについては、組織の改編等で一緒に活動していくことがかな り増えてきたというように伺っております。また、学校の方でも、教員 の小中間の交流が盛んに行われ、例えば、今年は運動会も合同で行われ ることを聞いておりますので、小中一貫の動きが本当に進んできたなと いうように感じています。さっき言いましたように、具体的なところ での疑問点やこうしたらよいのではないかとというご意見が増えてき ましたが、それに限らず、自由にご自身が思ったことを共有していただ

く会議ですので、今回や今後についても積極的にご意見いただき、活発な意見交換ができればと思っております。
本日はお集まりいただきありがとうございます。

次第 2	委員自己紹介
	(委員自己紹介)
次第 3	笠原幼保小中一貫教育研究会について
会長	・ 次第 3 「笠原幼保小中一貫教育研究会」について事務局に説明を求めます。
会長	・ 只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・ 2 月の入学者説明会ですが、今回の場合全員ではなく、新 1 年生と新 7 年生だけというのは、なにか理由はありますか。
事務局	・ 全学年の方たちにも広く笠原小中学校のことを知っていただきたいと思いますのですが、そちらは10月の保護者説明会の方でさせていただいて、2 月の説明会は通常の学校説明会ということで、具体的な持ち物や直前の入学に向けての説明会として、場合分けをしています。10月は全員に対して、2 月は今度新しく入学する子を対象に調整をしているところでございます。
次第 4	現在の検討状況について
会長	・ 次第 2 「現在の検討状況」について事務局に説明を求めます。 (各ワーキンググループ検討状況について報告・説明)
会長	・ 只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・ ロイロとはなんでしたか、教えてください。
事務局	・ 今、子供たちは 1 人 1 台タブレット端末 (iPad) を持っています。今までは手で書くノートがありましたが、それが iPad の中でできるものと捉えていただければ、一番わかりやすいかなと思います。その中で行うことによって、子ども同士の交流がお互いノートを持って見せ合わなくても、電子の中で交流ができるようなものとなっております。
会長	・ 一番不安なのが指導要録の話で、入試の関係で書類等提出することがあると思いますが、そのあたりの不安は (小中一貫に) 変わっても無いでしょうか。
事務局	・ 無いと思っています。例えば調査書ですが、それは指導要録と別に作るものですので、他の学校と同じ様式のものを使って作成します。入学後に学習指導要録を進学先に送ることがあるのですが、そちらについても 6 年間で 3 年間に分けることによって、3 年の他の中学校と同じものが高校へ行くことになります。
委員	・ 修学旅行って 2 回でしたか。

事務局	・前期課程の6年生の1回と、後期課程の3年生で行くので2回です。 当分の間は、6年生と9年生で行くことになると思っております。
委員	・小学校の先生は中学校へ、中学校の先生は小学校へ行くということで、働き方改革にも寄与しているという点で、小・中学校の教員免許が必要だと思うのですが、ということは、基本的に小・中学校の教員免許を持っている方が中心に配置されるのか、それとも新たに任命されるのでしょうか。
事務局	・今、基本的に移動して両方の授業を行っている教員は、小・中両方の免許を持っています。一部は、片方のみの場合もございますが、この先義務教育学校になることを見据えて、両方の免許を持った教員を配置する予定です。
委員	・笠原幼稚園、保育園には他地区からの子供が来ますが、その他地区からの子供たちは、笠原小中学校には基本通えないということですよ。
保育幼稚 委員	・はい、そうです。 ・ふるさと学習の時間がありますが、これは総合的な時間として扱われるのでしょうか。
事務局 委員	・総合的な学習の時間の中で、ふるさとの学習を行う予定です。 ・中京学院大学が移転してくるということで、教育に笠原の町は力を入れ、それにより名古屋に勤める人や外で勤める人が定住する可能性があると思いますが、義務教育学校として例えば、具体的に全国と比較してこれくらいの点数を取りたい、といったようなそういった目標はあるのでしょうか。同地域と比べて、学習の理解度やテストの点数が高いといったような、他より優れている点や根拠となる数字があることで、外部の人が住む選択肢になる可能性が高まるのかなと思います。
教育長	・私もそういった目標が持てるといいなとは思いますが、実はそうした数字の目標が持てないのが現状です。というのは、全国学力調査というものがあるのですが、あちらは最終的に公表をしております。また、結果がその学校の学力を表しているかという、必ずしもそうではないということもありますので、なかなかそういった目標が持てないのが正直なところです。ただ、現実の問題でいうと、今市役所の中に移住・定住の専門の部署が立ち上がっています。そこに色々な相談が来るのですが、その中に数件ではありますが、「今度笠原に小中一貫校ができると聞いたが、そこに関心があり、定住も考えている」という問い合わせもあります。点数とは別に、笠原こども園や小中学校が地域の、町の魅力として、少しでも関心を持っていただけたらと思います。
笠中校長	・学校の立場からお話すると、学校教育ですので、義務教育学校であれ小学校中学校であれ、学習内容が大きく変わるかといったらそうではないです。ただ、笠原小学校で言いますと、文科省の指定を受けて小学校1年生から外国語を教科として行っています。6年間で330時間とやって

教育長 委員	いて、通常だと3・4年生が外国語活動、5・6年生から英語で、1・2年生は特に入っておりません。時間数や前倒しで1・2年生から行っているという点はかなり特殊かなと思います。義務教育学校になるということから、教科担任制として教科の専門免許を持った人が授業を行う、学年の幅が広がる、中1ギャップが減らされるということから、結果として学力が上がるということは期待できるかなと思います。 ・ ご質問いただいたことは、これからも続く課題になると思います。 ・ 卒業式のようないわゆる節目となる行事はすごく大事ななと思っていて、6年生から中1に上がる、つまり6年生から7年生に上がる年が卒業式にあたるとは思いますが、そういった節目はどうなるのでしょうか。
笠中校長	・ 現在検討をしておりますが、やはりそこで一つの節は作ってあげないといけないかなと思っています。反対に、無しでありがたいという意見も聞きます。ただ、現状では一つの節目を作ってあげて、どの程度、どんな形でというのは、今後詰めていきたいと思っております。
委員	・ 小学生の決められた服、体操服みたいなものは無かったですよね。半袖に短パンのようなイメージですが、規程等無いですか。
事務局 委員	・ 無いです。 ・ 中学生はジャージですよね。
事務局	・ 例えば前期課程の5年生、6年生のお子さんと、親御さんも含めてジャージを着たいとなった場合は、7年生になるまで着られませんかと言ってしまうのか、同じ学校の中なので認めますということにするのか、幅を利かせて見ていかなければと思います。
委員	・ 今後さらに生徒が少なくなり、保育園・幼稚園から中学生までずっと同じ顔ぶれで過ごすことになって、それが嫌だとなった場合、難しい話ですが、多様性を含むような工夫をしていただけたらありがたいなと思います。
次第5 笠原小中学校北側の道路整備について	
会長	・ 次第5「笠原小中学校北側の道路整備」について事務局に説明を求めます。
教育総務 会長	(教育総務課より説明) ・ 只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
会長 教育総務	・ 今、道路が広がっていますよね。今後の工事はどうなりますか。 ・ 現在は、道路内の水道工事が完了した状態。今、舗装をきれいにしてしまうと、学校建設工事の車が往来するため、舗装がガタガタになってしまいます。そのため、一旦道路工事を休止しております。学校の工事が完了後に新たに道路舗装工事を行うよう発注準備を進めています。
会長 教育総務	・ 心配なのが上がってすぐのカーブの先の幅のところなのですが。 ・ 坂道を上がったカーブの先の道路北側は、舗装でアスカーブというも

	のを設置するため、側溝を設置するより車道幅員が広がる形状になります。
会長	・冬の凍結についてはどうですか。
教育総務	・今までは歩道に色が塗ってあり、多少は表面もザラザラになっていましたが、雪が乗ると滑り易くなっていました。今回は舗装のみとして、滑らないよう子どもの安全を確保します。しかし、どうしても凍結等がございますので、融雪剤を設置するなどして対応していくことになると思います。
委員	・歩道橋は横断歩道に変わるということですか。
教育総務	・歩道橋がありましたが、もう撤去されています。最終的には横断歩道に変わります。
委員	・それは信号機付きの横断歩道ですか。
教育総務	・信号機は付いておりません。
会長	・音羽から来る車は、スピードが出ており危なくないですか。
教育総務	・徐行等の看板をつける等、検討をしております。
会長	・道路ではないですが、このご時世で、学校周りにフェンスをつけていただくということは考えておいででしょうか。
教育総務	・学校に隣接したところにお墓が二つあり、そこに行きたいので通してほしいという連絡が、工事中の現在でもあります。そのため、完全に閉鎖することができない状況です。あとは、地域の方にも見守っていただくということで、解放した形でいきたいと思っています。また、今考えているのは、リサイクルステーションを設置して、そこで資源回収の代わりにいつでも捨てられるようにしたいため、閉鎖はしないということで考えております。
委員	・陶ヶ丘公園のお墓の方への道は確保されていますか。
教育総務	・はい。今までは舗装されていない部分になりますが、今後駐車場として全面舗装され、今よりきれいに整備されます。
委員	・そこは子供たちの通学路にはならないということですよ。
教育推進	・はい。
委員	・今度の新しい道は、センターラインがない道路ということですよ。
教育総務	・はい。
委員	・前の学校では、送迎ってどうでしたか。大丈夫でしたか。
委員	・結構すれ違いが厳しかった印象です。
委員	・これからのご時世送迎する人が増えると思いますが、今までよりはだいぶよくなり、幅的にもすれ違えるということですよ。センターラインは無い分、歩道は確保するということですよ。
委員	・警報発令時の保護者引き渡しの時等に、すれ違い時にセンターラインがあったほうがいいのかと思いますが、その辺りはどうでしょうか。
笠小校長	・引き渡しに関しては、旧校舎の時も同様に北側道路から登って来て、

	出るときは幼稚園側に出ていただく、一方通行の形で行なっていました。できるだけ二次災害が起きないようにという配慮は、当時からさせていただいておりましたので、新校舎も同様な経路で考えており、運用を見ながら、必要であれば対策を考えていきたいと思います。
委員	・そこの抜ける道（幼稚園側）は広くなりますか、変わらないままですか。かなり狭かった印象ですが。
教育総務	・極力広げます。また舗装もきれいにし、車一台は十分に通れるように整備します。
教育長	・やはり、道路については多くの要望があると思いますが、実は色々と用地を買収して対応しております。また、道路を設計している専門の職員もおります。今までだと、どちらかが止まらなるとすれ違えないのが現実だったのですが、それを解消して、動きながらでもすれ違えるような広さを確保したというところですね。その他には、歩道についても施工上の色々な問題やコスト等を踏まえて、しっかり分離をするということとし、さらに拡幅となると新たに用地買収ということにもなります。現時点で出来る限りの対応をとっております。
委員	・これはゾーン30になるのですか。
教育長	・制限速度をどうするかというのは、警察との協議になりますので、今後協議するところになるかと思います。
委員	・ゾーン30と書いてあると、通学路だなという意識もできますし、事故率も少ないので、そういったところを徹底してもらえたらと思います。
会長	・敷地内の道は小中学校の用地になるため、広くできるということですが、敷地の外となると狭くなってしまうのが難点ですね。でも、どうしようもできないですよ。
会長	・引き取りは、おそらくグラウンドでしますよね。
笠中校長	・引き取り場所等は、4月早々にお伝えしなければいけないので、早急に決定をしたい。現在と違う形にしまうと混乱を招いてしまいますので、相談をしてお伝えいたします。
会長	・今幼稚園側から見ていると、校舎とプールの間って車でグラウンドの方へ抜けられるのですか。
教育総務	・通れるようになります。
会長	・プールへ行くときは校舎からの通路があるのですか。
教育総務	・校舎からプールへ行くときは階段がありますし、下からも通ることができます。
会長	・幼稚園の方から見ると、体育館の左側のところが駐車場になると思うのですが、先生たちの駐車場が遠くて大変かなと思ったのですが、そういうことはないですか。
教育総務	・それはないです。
笠中校長	・先ほどWGでお話があったカバンについてですが、今のサブバッグは無

	くしていく方向で考えております。そうすると、容量が小サイズのカバンではなく、もう少し大きめのものがということで、推奨品を2パターンほど学校からお示しをさせていただいて、加えてそれぞれご家庭で好きなものを選んでお持ちいただくという形にできたらなと思っております。
会長	・軽くしていただくことが一番の願いですね。本当に重たいものを背負って通っているのです。
会長	・教室の中には、制服等を掛けるスペースはありますよね。
笠中校長	・教室の中には今のところありません。ワークスペースのほうに場所を取っていただくなどの対応になります。
委員	・高校のときはブレザーをかけるところとかは無かったですよね。
笠中校長	・今、制服は空き教室にハンガー等を準備して掛けています。
委員	・不審者対策の設備はございますか。
教育総務	・防犯カメラを設置し、対応いたします。
会長	・多治見市で一番新しい小泉小などは玄関等閉まっておりますが。
教育総務	・入り口は閉まっておりますが、その他は開いているため、完全には閉まってない状態ではあります。
委員	・新校舎は、門と門の間の扉は無いですね。
教育総務	・車の動線は車止めのポールがあり、人が入って来られないかという と、入れる状況になっています。子どもが歩いているところを車も自由 に入れるかという、そこは分離しております。人は入れてしまいます が、お墓への通行等地域への対応もあり閉鎖は困難です。
委員	・どこの学校でも入ろうと思えばどこでも入れちゃいますよね。乗り越えたりして。
教育長	・完璧に人が入れないようにするという要望が多数あった場合、検討しなければいけないですが、それを実現させようとする、高さ2～3mの塀を作ることになります。敷地内全てを囲うことは事実上無理なのと、入ろうという思いで近づく人を阻止することはできません。防犯カメラの運用方法や校舎のドアのカギを通常しておくかどうかを今後学校で検討することになると思います。
委員	・みんなで取り囲むのが手っ取り早い話にはなってしまいますよね。人を信用できないのも、つらい話ですし。
教育長	・また、最近話題にもなりましたが、保護者が乱暴をするというのは正直防ぎようがない話です。
会長	・その他、質問等ありませんでしょうか。 (特になし) 色々と細かい質問をして申し訳ないですが、町民としては、今のうちに改善できるところはしておかなければという思いでおります。

会長	・ 次第 6 「笠原こども園」について事務局に説明を求めます。 (保育幼稚園課より説明)
会長	・ 只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・ 幼稚園と保育園の行事ってというのは、こども園でも一緒なのでしょうか。例えば、遠足とか、それはみんな一緒にいくのでしょうか。
保育幼稚園 委員	・ 行事の方は、基本的に一緒に行います。 ・ 星ヶ台にも大きな保育園があり、こちらも195人の定員となっていますが、併せて義務教育学校ができるということで、外国人が増える予定とか、多治見市として工場を増やすとか、そういう意思があって、この辺りの工事をしているわけではないですか。
事務局 会長	・ そういうわけではないです。 ・ 増築園舎とありますが、それが今の幼稚園のすぐ横を出た新しいところで、仮設園舎がプレハブのところですか。
保育幼稚園 会長	・ そうです。
保育幼稚園 会長	・ 床暖房が入るということですが、それはどちらに入るのでしょうか。 ・ 増築園舎です。
保育幼稚園 会長	・ 仮設園舎は、来年の3月に向けて壊されて、園庭になるのですよね。広さとしては、それで十分なのでしょうか。
保育幼稚園 委員	・ はい、十分だと思われます。
保育幼稚園 委員	・ 新設園舎には、床暖房は入らないのですか。
委員	・ 新設園舎には、入りません。やはり、未満児には床暖房がということで、増築園舎には付いております。
保育幼稚園 会長	・ そういった指針があるのですね。 ・ 基準とまでは言いませんが、やはり望ましいということですね。
保育幼稚園 会長	・ 星ヶ台保育園も、そういう3歳未満児は床暖房で、それから上は無いのですか。
保育幼稚園 会長	・ 無かったと思われます。 ・ 安全の問題ですが、車の出入りが結構ありますので、安全確保だけ十分していただけたらと思います。
会長	・ その他、質問はございますか。 (特になし)
会長	・ では、全体で何か質問はございますか。 (特になし)
副教育長挨拶	
会長	・ 最後に、副教育長よりご挨拶を願います。
副教育長	・ 本日はありがとうございます。私も去年まで、委員の席に座り一緒に議論に参加させていただいておりました。会長も言われましたが、いよいよ現実味を帯びて、細かいところに気づいたりして、間近に迫って

きたなと実感しているところです。色々な思いがあると思いますが、やはり新しいことへのワクワク感や、子供たちも新しい校舎をととても楽しみにしていると思いますし、またそれによって私たちも子供たちが気持ちよく学校生活を送ってもらえるのが何よりです。そうなるために、いざ校舎ができて子供たちが入ったときに、色々なところに気づくと思うので、その時にどんどん変えていく、より良いものにしていくという点で、伸びしろがあるのかなと思います。会長とこれまでも多くの義務教育学校へ視察に行きました。それぞれの持ち味があるし、それぞれの学校の良さがあるので、こういうやり方だと決まっているわけではないです。保護者の方と学校関係者と、地域の方も含めて、笠原型の小中学校になるといいなと、ここだからできるだとか、この地域だからいいよねというものが作れるような、そんな学校にしていけたらと思います。引き続き色々なところに気づいたときに、遠慮なく仰っていただいて、よりよくしていこう、子どもたちが気持ちよく過ごせるようにみんなで頑張っていこうという思いで、一緒にやっていきたいと思いますので、今後もよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

閉会

会長

・以上で、第24回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会を閉会します。

—以上—